

あなたとつくるまち 八王子市の学校教育 基本原則 ～これからの八王子市の学校教育～ 資料2

はちおうじっ子の「生きる力」

子どもたちが自分の「みち」を見つける力と、その「みち」をあゆんでいくために必要な力を身に付け、これからの社会を担っていくための力

◎確かな学力 ◎豊かな心 ◎健康なからだ・体力

○一人ひとりのニーズ ○継続性・連続性

○夢や志、挑戦する心 ○指導体制の向上

○家庭・地域の力を活かす ○学びを支える環境

【令和2～6年度 ビジョン はちおうじの教育】

市立学校は「八王子市の未来を創る一人として、自信をもって前向きにチャレンジできる子ども」を育てます！

- 基礎・基本を身に付けている
- 一人ひとりが大切にされ、自分・他者のよさを自覚できる
- 保護者や地域住民、他者と協力して課題解決できる



八王子市が推進してきた小中一貫教育の成果と未解決の課題

八王子市は平成17年度の「小中連携の日」の取組を皮切りに、「小中一貫教育に関する基本方針(平成20年)」を策定し、平成23年度から全校で小中一貫教育を推進してきた。

○子どもたちにとっての成長のモデル(例)

- ・数か月前まで幼児だった小学1年生にとって、大人のように見える中学生の動きを見て、感動のあまり「すごすぎる」「かっこいい」と興奮して話す姿
- ・中学3年生の書き初めや合唱コンクールを鑑賞し、感動のあまり「鳥肌が立った」「すごすぎて言葉にできない」「あんなふうになりたい」と表現する小学生
- ・小学校の学校行事の準備・片付け、当日のボランティアとして参加し、小学生とともに汗を流して活動し、「1年生がありがたうと言ってくれてうれしかった」「自分もあんなに小さかったんだ」「見かけたときに自分に手を振ってくれるようになってうれしかった」と語る中学生
- ・小・中学校合同で行った道德授業地区公開講座では、中学生が相互に、また外部講師と理路整然と意見を述べ、やり取りをする姿を見合うなど、教員が子どもたちの9年間の発達や成長を確認、共有している。

○相談できる大人が複数に

- ・悩みのある中学生が小学校の頃の担任に会った際に「先生ちょっと…」と相談したことをきっかけに、小・中学校の教員が相互に情報共有し生徒の悩みを解決することができた。
- ・子どもたちの発達等の特性について「こういうケースはどう対応していた?」「Aさんはこんな感じで声を掛けたら落ち着きました」など、小・中学校の教員が相互に対応方法を検討・共有し、これまで以上に一人ひとりに寄り添った柔軟な対応ができるようになった。

【未解決の課題】

○小中一貫教育の日(年3回以上)

- ・日常的な取組にはいたっておらず、その時だけの交流になっている。

○学習指導

- ・学習内容の定着が不十分のまま、中学校へ進学している子どもがいるが、中学校では小学校での学習内容が定着した前提で学習指導を行っている。また、既存の学力調査等では、子どもたち一人ひとりの学習の定着状況を経年で把握することができないため、指導の工夫・改善に活かすことができない。

○教員の意識

- ・「小学生の時はそんな問題はなかったのに、中学生になったら問題行動が目立つようになった」「小学校できちんと定着させていないから、中学校での指導が大変だ」など、中学校進学時に小学校、コミュニティ等の分断があるため、小・中学校がそれぞれで指導を完結しようとする意識が見られる。

○情報共有

- ・小学校で人間関係や問題行動等(いじめ、不登校、暴力行為)についての詳細が十分に中学校に伝わっておらず、配慮すべき子どもたちについて、「中学校では同じ学級になってしまった」など、配慮が不十分である。

この理念を実現するためには
小中一貫教育の一層の充実が必要
② 地域の子どもを地域で育てる

地域に生きる子どもたちの9年間の発達・成長を見通した学校教育

小中一貫教育の充実のために何をしますの？

○個別最適な学びを実現し、9年間切れ目なくつなぐ

9年間、切れ目なく子ども一人ひとりを把握し、基礎・基本の確かな定着を図る。また、教育活動の特色を踏まえ、柔軟に学年区分を設定するとともに、9年間を見通した個別最適な学習を実現する。さらに、一人一台配備された学習用端末の有効活用により、指導の個別化、学習の個別化を通して、子どもたちが主体的に学習に取り組むことで、発展的な学習にも挑戦できる教育課程を編成する。

- ・中学生が小学生に、また小学校の教員が中学生に対して補習をすることで、学習内容を定着させ、つまづきの傾向について理解を深める。
- ・中学校の英語教員が、小学校の英語授業を担当することで、小・中学校の学習指導をつなげ効果を高める。
- ・小学生が、中学生の作品、活動、プレゼン等から学び、他者の多様で優れた資質・能力に触れることを通じて学習の質を高める。

○「地域の子どもは地域で育てる」かわかり

地域の方々とともに、地域の子どもは地域で育てる意識を共有し、「地域を、地域で、地域とともに学ぶ」ことのできる地域の特色ある教材を開発し教育活動に活かす。

- ・小・中学生が地域清掃デーに積極的に参加し、地域の方々との対話、関係づくり
- ・小・中学生が地域の防災訓練で活躍し、地域の方々に頼られる経験とその機会づくり
- ・地域の方々から勉強を教えってもらう子ども、世代を超えて「ピブリオバトル(知的書評合戦)」

小中一貫教育の充実をどのように推進するの？

○子どもの発達・成長を9年間で見通し切れ目なく編成した教育活動

- ・学習指導要領を踏まえ、義務教育9年間の子どもの発達・成長を軸にした教育課程編成
- ・小・中学校を超えた学年を遡って復習、一人ひとりの興味関心に応じた探究
- ・小・中学校を超えて、多くの教職員が子どもたちを見守る体制の構築

○地域運営学校としての取組の充実

- ・地域の「願い」を踏まえ、地域の「たから」など、地域の特色を活かした教育課程編成
- ・学校コーディネーターの参画により、地域のネットワークを活かし、地域と密着した地域教材の開発、学習指導案の検討
- ・子どもたちが地域の方々とともにコミュニケーションを図りながら探究する「郷土学習」の実践(地域の方々から学ぶ、子どもたちが地域に出て、地域の方々と対話を通して活動)

問題点と解決に向けて必要な施策

【問題点】

- 小学校及び義務教育学校前期課程5・6年生の教科担任制実施に向けた指導体制の構築
- 小中一貫教育を推進するグループの中学校と小学校の学区の不一致(小学校、コミュニティの分断)
- 様々な形態による小中一貫教育を推進するグループの存在(施設分離型モデル/施設一体型モデル)

施策①

全校を小中一貫校・義務教育学校に

施策②

地域特性を踏まえた学区の再編